

「Vogtle 原子力発電所における遠隔モニタリングの進展」

Mr. Clark Borne (Vogtle NPP, 米国)

Vogtle の遠隔モニタリング導入経緯及び効果についての発表である。1992 年に格納容器内の局所的な線量・映像・音声記録装置を導入、1994 年に格納容器貫通部の外にシートで仕切って PC 等を仮設、1996 年に中央モニタリング・システムを導入と、徐々に改良してきた。

Vogtle では放射線サーベイ・マッピング・システム RadIS(Radiological Survey Mapping System)を導入し、サーベイ・データを自動的にマッピングしている。遠隔モニタリング導入前と比較すると、放管の被ばく線量は 8 割近く減少した。

